

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

平成27年12月11日

第59号

# きらりNet

秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

## ICT機器活用で学習活動を支援

児童生徒のニーズに応じて、本校で活用しているICT機器に関する5つの事例を紹介します。

### 〈教科学習にiPadを活用している事例〉

上肢の動きに困難さがあるため、教科書を準備したり、ページをめくったりすることが難しい中学部の生徒への支援として、デジタル教科書や辞書アプリなどを導入して学習環境の改善を図りました。最近では学校や家庭での学習に活用できる様々なアプリが登場し学習意欲の向上にもつながっています。



本事例は東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループ株式会社による「魔法のプロジェクト」に研究協力校として参加し、実践を行っています。

### 〈作業学習にICT機器を活用している事例〉

手指の動きに制限がある高等部生徒への支援として、空間に仮想スイッチを設定することができる「OAK」を導入し、作業学習で縫製作業に取り組んでいます。生徒が自由に動かすことができる頭部の動きをセンサーで捉えて信号に変え、その信号によって電動ミシンを操作しています。

「OAK」とはObservation and Access with Kinectの略。一般的に「オーク」と呼ばれています。Kinectセンサーで対象者の体の動きを観察し、体の動きをスイッチ操作に変えることができます。



本事例は公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会による研究助成を頂いて取り組んでいます。

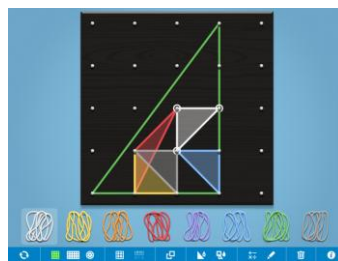
秋田県特別支援学校ICT活用教育推進事業として、本校にiPadが導入されています。タブレット端末の長所を生かして児童生徒の教育的ニーズに応えられるように活用を図っています。

### 〈教科学習での事例〉

手指の動きに制限がある児童生徒が、具体物を操作する場面では何らかの支援が必要になります。数学で図形の学習をする場面では、iPadとiOSアプリ「Geoboard」を組み合わせ導入しました。画面をタッチすることで任意の場所に直線や図形を描くことができ、楽しみながら学習に取り組んでいます。

### 〈予定管理での事例紹介〉

視覚的な情報を順番に提示することで活動に取り組みやすくなる児童に、iPadとiOSアプリ「たすくSTEP」を組み合わせ導入しました。このアプリを導入したことで、一人で手順どおりに歯磨きなどの活動に取り組んでいます。このアプリは自分で撮影した写真を取り込み、並び替えてオリジナルの工程表などを作ることもできます。アイデア次第で活用の幅が広がっています。



左「Geoboard」、右「たすくSTEP」の操作画面

### 〈身近な人とのコミュニケーションでの事例〉

発語が限られている児童が身近な人とコミュニケーションをするためにiPadとiOSアプリ「絵カードコミュニケーション」を組み合わせ、VOCAとして活用しています。自分の気持ちや質問に対する答えを画面に表示した絵カードから選ぶことで、相手に伝わる安心感が意欲的な活動につながっています。

# 小学部 地域交流～上北手小学校3年生との交流会

小学部では地域にある上北手小学校3年生と毎年交流をしています。今年も11月18日に27名の児童が来校し、交流会を行いました。始めの会では、互いに歌を発表し、上北手小児童のきれいな歌声に本校児童は笑顔になりました。自己紹介では、グループに分かれて好きな物を発表したり、質問をしたりして距離が縮まりました。ボール送りゲームでは、グループ体となり、ボールを受け渡ししながらゴールを目指しました。言葉を掛けて優しくボールを渡したり、スロープを持つのを手伝ったりするなど力を合わせてがんばる姿が見られました。上北手小児童からは「負けて悔しいけれど、きらりの友達と一緒に点数を取って楽しかったです。」という感想発表がありました。触れ合いながら仲良くなり、楽しいときを共有できた心温まる交流会になりました。



自己紹介



ボール送りゲーム



## 教育専門監のコーナー 「一人一人の豊かなコミュニケーションを育むために」

### コミュニケーションの成り立ち I

#### 【注意の発達】

注意とは、「周囲からの働き掛けに対して意識を向けること」を経て、同時に存在するいくつかの情報や物事の中から、特定の事象に意識を焦点化し集中することです。必要な情報を優先的にとらえる注意の発達によって、特定の事象に意識を集中・継続するようになり、周りの物や人との関係が育まれます。

注意には、情報により自動的に引き起こされる外発的注意と、人が自ら意図的に注意する内発的注意があり、外発的注意→内発的注意の順に育まれていきます。

### コミュニケーションの成り立ち II

#### 【注意から期待へ】

情報の受容による快の感覚から楽しさに気付き、繰り返し経験することで、特定の事象に注意を向ける力が形成されていきます。この注意が一定時間継続できるようになると、「次は～きつと〇〇だ!」という時間的に遅く到来する働き掛けや情報を待ち構える予測的な注意ができるようになります。

情報に対して興味をもって注意を向け、過去の経験や記憶と照らし合わせて現在の状況を判断することで特定の事象への期待が生まれます。この時の、笑顔の表出、瞳をキラキラと輝かせる、関わりを期待して身構える等の行動を、期待反応と呼びます。

### コミュニケーションの成り立ち III

#### 【外界への最初の一步期待反応】

予測的な注意を継続し、何らかの行動により情報や働き掛けを待ち構えることを示す期待反応は、関わりを受容するだけの受動的な状態から初めて外界へ対して期待という意識を向けた精神的、能動的な営みとなり、コミュニケーションの出発点となります。期待反応の確立には、周囲からの働きかけや情報の理解とその後の事象が遅れて到来するという時間関係の認知が必要となります。

### 注意・期待を促すコミュニケーション指導

対象に注意を向ける力を育むためには、子どもの注意が何かに向いているときに、一緒に楽しむ、言葉掛けをする、物を渡すなどの大人からの「関わり」が大切です。「人の顔」や「人の声」に注意が向くようになることで、相互のコミュニケーションに発展していく手掛かりとなります。

期待を引き出すためには、楽しいことの前に「手がかり」を示し、楽しいことが起こることを「予測」させることが大切です。日常の指導場面で意図的に手がかりを設定し、大人との関わりにより期待を育てていきます。手がかりと楽しいことを結びつけるためには、その両者の因果関係を理解することが必要です。そのためにも子どもに蓄積されていく魅力的な指導が大切となります。

手がかり



予測



期待



楽しい活動

参考資料：広島県立福山特別支援学校 自立活動部編「自立活動ガイドブック 4版」

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 石川 純子 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

